



日本に現存する最古の和歌集『万葉集』をわかりやすくご紹介。



三輪山見れば
み もり

（神として祭る三輪山を見ると、それに続いて
さうに奥の、隱口の始灘の檜原がしのばれるよ
作者未詳（巻7）

作者未詳（卷7—〇九五番歌）

がある一方で、ひとたび万葉歌の世界に目を向けると、やや状況が異なります。

檜が詠まれた歌は九首しかなく、うち六首が当時の巻向・三輪・泊瀬に広がっていたという檜原を詠んだものです。万葉歌でこの檜の詠まれ方には、どうも片寄りがあるようです。

右の歌は、そのうちの一首です。歌の作者は、三輪山の檜原を
先月の答え

見て、視界には入らない始瀬（泊瀬）まで続く檜原のようすを連想しています。

「」のタイプの連想は、身近なものや過去の記憶によるところが大きく、この場合、泊瀬での思い出が、檜原を通して甦ったのかかもしれません。歌の作者に、いったいどんな思い出だったのか、どぜひ聞いてみたいものです。

ただ、こうした古代社会の実態

(本文 万葉文化館 竹本 晃)

答えは来月号を見てね♪

檜材が使われている現役の建物はどれでしょう？

今月の問題

歌の数や歌の種類など巻毎で違っているんですね。すつて。



クイズ



出雲人形

奈良県出雲

今回の歌が詠まれた桜井市に、出雲と二つ地名があります。島根県の出雲から、この辺りに多くの職人が移り住んだそうです。その名残が、今も地名や郷土人形の「出雲人形」

日本に現存する最古の和歌集『万葉集』をわかりやすくご紹介。

万葉集

Vol.
3

1

（神として祭る三輪山を見ると、それに続いて
さうに奥の、隱口の始灘の檜原がしのばれるよ
作者未詳（巻7）

作者未詳（卷7—〇九五番歌）

閩學府報府聽課 爲 0742-27-8326 FAX 0742-22-6904